

第1学年 国語科学習指導案

平成27年11月13日（金）第5校時

授業者 西脇 美穂

1. 単元名 くらべてよう

2. 教材名 「じどう車くらべ」

3. 指導の立場

トラックを見たとき、多くは広い荷台に目がいく。クレーン車も伸縮性のある腕に目がいく。しかし、自動車の「つくり」は、「しごと」と関連させて、更なる工夫がされていることに、2つ目の「つくり」を読んだときに気付き、なるほどと思うはずである。知っていそうで見落としていたことに気付かされるのは、新鮮である。

「じどう車くらべ」は、まず自動車についての話題に始まり、問いがあって、それに対する答えを幾つかの自動車の具体例に沿って説明していく。自動車は、その「しごと」によって「つくり」が異なり、「そのために」を使うことで、二つの事柄の因果関係を感じられるような説明の仕方になっている。

児童は、「くちばし」でさまざまな鳥のくちばしについて特徴を記した文章を読むことで、説明されている事象を正確に読み取ることと、「問い」と「答え」という説明文の基本の型を学んだ。さらに「うみのかくれんぼ」では、一つの「問い」に対し、「答え」が3つで構成された文章を読んできた。

「くちばし」では、第三次に「くちばしクイズ」を考える活動を見通し、学習に取り組んだ。普段の生活経験から、「問題」の後に「答え」がくることは多くの児童が理解していた。また、鳥に関する本をたくさん教室に置いておいたことで、自然と手に取って見る児童や校庭に飛んできた鳥に興味を示す児童など、いつも以上に鳥に関心をもって学習を進めることができた。しかし、くちばしの動作化をしたときに、文で表現されているこ

ととは違う動作になってしまった児童や、図鑑の文からクイズの文を作るときに、どの部分を選択したらいいのかわからず、かなりの支援が必要となった児童が何人かいた。

本単元では、「じどう車ずかん」を作成する活動を目指す中で、曖昧な語句は一つ一つ動作化なども踏まえて明確にしていきたい。また、教科書の文章から大事な言葉や文を書き抜く練習を三回積み重ね、さらに「はしご車」を全体で作成して書き方を身に付けさせ、最後には、自分が選んだ自動車の図鑑をできるだけ、自分の力で完成できるように導いていきたい。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全12時間の単元指導計画である。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、学習計画を立てる。第二次では、第三次の言語活動をするために、「しごと」と「つくり」の書き方について学び取っていく。第三次では、それまでの学習を活かして、自分で「じどう車ずかん」を作る活動を位置付けた。

○研究内容2に関わって

〈交流の形態〉

全体交流の前に、一人読みの時間を位置付け、まずは自分の考えをもつ。次に、全体で考えを出し、曖昧な部分は、模型を動かしたり、動作化を取り入れたりして、全体で確認をし、理解の歩調を合わせながら学習を進めていく。

〈深めの発問〉

2文目で終わる文章と3文目まである文章（教科書）を比べることで、教科書の方が、より詳しく、わかりやすく「しごと」と関連付けて書いている筆者の説明の工夫に気付かせる。

〈学習のまとめ〉

毎回、終末のまとめで、視写をしながら自動車図鑑を作成していく。教科書の視写で3つ、みんなで意見を出しあいながら1つ、そして学びの集大成として、最後に自分で作成することとした。

5. 単元指導計画

◇単元の指導目標

- ◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。(読イエカ)
- 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。(書イウオ)

単元を貫く課題

同じクラスの仲間に、自分が好きな自動車についてわかりやすく伝えるために、「しごと」と「つくり」の形式を使って自動車図鑑を作り、発表しよう。

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準 (評価方法)
第一次	1 2	クラスの仲間に対して、自動車図鑑を作り、発表するという活動の見通しをもち、学習計画を立てることができる。	1. 知っている車の名前を挙げる。 2. 教師からの「じどう車クイズ」に答え、自動車によって、作りが違うことに気付く。 3. 教師が作成した図鑑を見て学習への興味をもつ。 4. 単元を貫く課題を知る。 ずかんにのせたいじどう車をえらび、がくしゅうのけいかくをたてよう。 5. 教師の範読を聞く。 6. 課題を達成するための学習計画を立てる。 7. 自分が図鑑に載せたい車を選ぶ。(本を選ぶ。)		【関】単元を貫く課題を理解し、意欲的に本を選ぶことができる。 (発言・本を選ぶ様子)
第二次	3	全体を読んで、問いの文をとらえ内容の大体を読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 「じどう車くらべ」を「もんだい」と「こたえ」のページにわけよう。 2. 教師の全文の範読を聞く。 3. 「問題」と「答え」のページに分ける。 4. 「問題」で聞かれていることを確認する。 5. 次の時間から、「答え」として書かれていた「しごと」と「つくり」について読み取っていくことを確認する。	②文のわかり「どんな～いますか。」 ③中心となる言葉・文しごとつくり	【読】「問題」と「答え」の部分に正しく分け、何について聞かれているのかを捉えることができる。 (教科書への書き込み・発言)
	4	バスや乗用車、トラック、クレーン車の「しごと」について読み取ることができる。	1. 前時の学びを振り返り、課題を確認する。 それぞれのじどう車は、どのような「しごと」をしているのだろう。 2. どのような仕事をしているか予想をして、自分の言葉で発表する。 3. 教科書に、どのように書いてあるか知るために、バスや乗用車の「しごと」について分かる本文に赤で線を引いたり、絵と結び付けたりする。(一人→全体) 4. トラックとクレーン車の「しごと」がどこに書かれているかを見つけ、赤色で線を引く。(一人→全体) 5. 3つの書き方を比べた感想を述べる。(ペア) 6. それぞれが同じ書き方であることに気付く。 7. 視写をする。	③中心となる言葉・文「～は…しごとをしています。」 ⑧絵・写真と文をつなげる	【読】3種類の自動車の仕事を本文の「～は、…しごとをしています。」の文に注目して見つけることができる。 (教科書への書き込み、発言)
	5	バスやじょうよう車の「しごと」を確認し、「つくり」を読み取ることができる。	1. 前時の学びを振り返り、課題を確認する。 バスやじょうよう車の「つくり」をよみとろう。 2. 「つくり」についてわかる本文に青で線を引いたり、絵と結び付けたりする。	④つなぎ言葉「そのため」	【読】座席や窓の作りが工夫されていることを読み取り、教科書

			3. 見つけた「つくり」について全体で交流する。 4. 「そのために」が文と文をつなげていることをおさえる。 5. バスとじょうよう車の図鑑を作る。	⑧絵・写真と文をつなげる	の必要な文を書き抜くことができる。(発言、ワークシート)
	6	トラックは、荷物を運ぶために広い荷台があるだけでなく、重さに耐えられるように、たくさんタイヤがついた「つくり」になっていることも大切にして説明されていることを理解することができる。	1. 前時の学びをふり返り、課題を確認する。 トラックの「つくり」をよみとろう。 2. 「つくり」についてわかる本文に青で線を引いたり、絵と結び付けたりする。 3. 見つけた「つくり」について全体で交流する。 4. 「そのために」が文と文をつなげていることをおさえる。 5. トラックの図鑑を作る。	⑦書かれているじゅん番	【読】荷台やタイヤのつくりが工夫されていることを読み取り、本文から必要な文を書き抜くことができる。(発言、ワークシート)
	7 本時	クレーン車は、重い物をつり上げるために、丈夫な腕がのびたり動いたりするだけでなく、車体が傾かないように、しっかりした足がついた「つくり」になっていることも大切にして説明されていることを理解することができる。	1. 前時の学びをふり返り、課題を確認する。 クレーン車の「つくり」をよみとろう。 2. 「つくり」についてわかる本文に青で線を引いたり、絵と結び付けたりする。 3. 見つけた「つくり」について全体で交流する。 4. 「そのために」が文と文をつなげていることをおさえる。 5. クレーン車の図鑑を作る。		【読】うでやあしのつくりが工夫されていることを読み取り、本文から必要な文を書き抜くことができる。(発言、ワークシート)
	8	はしご車の「しごと」と「つくり」をとらえて、説明の文を考えることができる。	1. 前時までの3種類の自動車の「しごと」と「つくり」について振り返り、課題を確認する。 はしご車の「しごと」と「つくり」をかんがえて、ずかんをつくろう。 2. はしご車の「しごと」について考え、発表する。 3. 挿絵を見て、「しごと」にあった「つくり」を考える。 4. 全体交流 5. 板書から、「しごと」と「つくり」を自分で選んで、はしご車の図鑑をつくる。		【書】事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら文章を書くことができる。(発言、ワークシート)
第三次	9 10	「しごと」と「つくり」の構成を考えたり、「そのために」を使ったりして自動車図鑑を書くことができる。	1. 課題を確認する。 じぶんがえらんだじどう車のずかんをつくろう。 2. 書く内容の順番を確認する。 3. 「しごと」「つくり」の項目ごとに文章を考える。 4. 教師よりアドバイスを受ける。 5. 「そのために」を用いて、下書きを完成させる。 6. 仲間同士で、校正する。 7. 発表の練習をする。		【書】事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、つながりのある文章を書くことができる。(ワークシート)
	11 12	自動車図鑑の発表会をし、感想を伝え合うことができる。	1. 課題を確認する。 じどう車ずかんのはっぴょうかいをしよう。 2. 絵を見せながら学級の仲間に自分の自動車を発表する。 3. 自分のものと比べながら、仲間の発表を聞く。 4. 感想を発表する。 5. 振り返りをする。		【関】自分のものと比べながら友だちの発表を聞くことができる。(振り返りシート)

6. 本時の展開（7／12）

（1）本時のねらい

クレーン車は、重い物をつり上げるために、丈夫な腕がのびたり動いたりするだけでなく、車体が傾かないように、しっかりした足がついた「つくり」になっていることも大切にして説明されていることを理解することができる。

（2）本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ【5分】	前時の学習内容から、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時の内容を振り返る。 ・「しごと」と「つくり」についての答えが書いてあった。 ・トラックの「しごと」は、荷物を運ぶことだった。 ・そのためにトラックの「つくり」は、広い荷台になっていた。 ・もう一つの「つくり」は、タイヤがたくさんついていた。 2. 本時の学習課題を確認する。 クレーン車の「つくり」をよみとろう。	・掲示物で確認しながら、前時までの学習を振り返る。 ・第三次の活動と関連させて、学ぶ目的を話す。
さぐる【17分】	クレーン車の「つくり」について、「そのために」をキーワードとし、その後に二つ書かれていることを読み取ることができる。	3. 本時学習するクレーン車についての文章を一文ずつ分けて、交替しながら3回音読する。 ・しごと…教師 ・つくり1…男子 ・つくり2…女子（交替して読む） 4. クレーン車の「しごと」について確認する。 ・クレーン車の「しごと」は、おもいものをつりあげること。 5. クレーン車の「つくり」を読み取り、青い線を引いたり、絵とつなげたりする。（一人読み） 6. みつけた「つくり」について全体交流をする。 ・じょうぶなうで。のびたりうごいたりする。 ・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしがついている。 ・バスやじょうよう車、トラックでも「そのために」のあとに「つくり」が書いてあった。	・読み分けて「しごと」と「つくり」を意識させる。 ・正しい姿勢で読ませる。 ・前時の学習の掲示を参考にすること、また、読みのかぎ④⑦⑧を使って学習することを知らせる。 ・机間指導で文と挿絵を結びつけることができているか確認する。 ・語句など曖昧な点について、動作化もして確認する。
深める【15分】	わかりやすい答えの書き方（筆者の説明の工夫：「しごと」と「つくり」には関連がある）に気付くことができる。	7. 考えを深める。 あしのことが書いてある部分が、もしなかったらどう思いますか。 ○全体交流 ・あしは、クレーン車が仕事をするために必要なものだから、あった方がいい。 ・重いものを釣り上げるから、車体が傾くかもしれない。だから、しっかりしたあしがついていることも書かなくてはいけない。	・気付いたことや感じたことなど、自由に発言できるよう助言する。 ・筆者は、読む人がわかりやすいように「しごと」と「つくり」をつなげて（関連付けて）書いていることを押さえる。
まとめる【8分】	「しごと」と「つくり」の文の大事な言葉や文を書き抜くことができる。	8. ワークシートにまとめ、クレーン車の図鑑をつくる。 クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしています。 そのために、じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。車たいがかたむかないように、しっかりしたあしがついています。 9. 学習の振り返りをする。 ・「しごと」と「つくり」は、関係があった。 ・「そのために」のあとに、「つくり」が書いてあった。 ・「うで」だけでなく「あし」のことも書いてあった。	・自分の選んだ車についても「しごと」と関連付けて、「つくり」を二つ書けるよう伝え、第三次を意識させる。 評価規準・評価方法 【読むこと】 うでやあしのつくりが工夫されていることを読み取り、本文から必要な文を書き抜くことができる。（発言・ワークシート）

